

蓮杖 RENJŌ

没後百年 日本写真の開拓者 下岡 蓮杖
A retrospective on Shimooka Renjō,
100 years after his death

概要

本展は日本の初期写真史において最も重要な写真師の一人である下岡蓮杖しもおかれんじょう(1823-1914)の足跡をたどる大回顧展です。その活動と長命な生涯について、最も体系的に記された口述筆記『写真事歴』(山口才一郎筆記、1894年、写真新報社)を軸に、蓮杖の代表的な写真作品のほか、絵画、工芸品などを中心に展覧いたします。本展は280点の実作品により、知られざる下岡蓮杖の生涯にわたる仕事を見渡す初の試みです。



《梅の枝を活ける女性》鶏卵紙 文久三～明治九(1863-1876)年頃
東京都写真美術館蔵 ※後期のみ展示

2014年3月4日(火)―5月6日(火・休)

[4月7日(月)に展示替えを行います]

東京都写真美術館 3階展示室

主催 東京都 東京都写真美術館

読売新聞社/美術館連絡協議会

協賛 ライオン/清水建設/大日本印刷/損保ジャパン/日本テレビ放送網

協力 下田商工会議所

東京都写真美術館

広報担当:久代、平澤、前原(Tel. 03-3280-0034)

下岡蓮杖とは

日本写真史における蓮杖

下岡蓮杖(しもおか・れんじょう／1823-1914)

江戸時代末期、開港とともに夜明けを迎えた日本の初期写真史において最も重要な写真師の一人。日本人初の営業写真師としては鶴飼玉川*1がわずかに早いものの、「写真開祖」の一人として日本写真界の第1世代を築いた人物です。同時期に活躍した長崎の上野彦馬*2に対し、東の蓮杖とうたわれ、横山松三郎、臼井秀三郎、鈴木真一など、後の日本写真史を継承する多くの優れた弟子を輩出しました。

*1 鶴飼玉川(うかいぎょくせん)…1807-1887年 写真師
日本で最古の商業写真家とされる。下岡蓮杖よりもわずかに1年ほど早い1861年に肖像写真を撮影したとされる記録が福井松平藩の御用日誌にも残る。

*2 上野彦馬(うえのひこま)…1838-1904年 写真師、蘭学者
長崎医学伝習所に入所し、化学を学ぶなかで写真術と出会い、写真技法の研究に着手する。日本初の写真技法書をふくむ『舎密局必携』を記したことも有名。



制作者不詳 《下岡蓮杖像》ゼラチン・シルバー・プリント
明治後期(c.1897-1912) 東京都写真美術館蔵

絵師としての蓮杖

蓮杖が写真師として過ごした時間以上に、その長寿な人生を画業に捧げたことはあまり知られていません。蓮杖は絵師としてキャリアをスタートさせ、20歳頃に江戸狩野派の画家・董川(とうせん)に師事し、その実力が認められ「董円(とうえん)」の号を与えられるまでに至ります。絵師としての生活のなかで写真と出会い、10年あまり研鑽を経て写真師となります。1876年頃、最愛の妻の死を境に拠点を東京・浅草に移し、写真とは異なる手業の画面制作へ情熱を傾けます。そこで写場背景画や、多くの日本画作品を制作しました。晩年の絵画作品には「写真元祖」の印章を用いており、写真と絵画の往来が蓮杖の礎となっていることがわかります。



下岡蓮杖 写真器材 下田開国博物館蔵



《(達磨の火もらい)》 陶製 制作年不詳
小川進コレクション

写真師としての蓮杖

1844年、絵師としての生活のなかで1枚の写真(ダゲレオタイプ)に出会います。「毛筆の及ばざる所世此の妙技あり、(中略)筆を折り、刷毛を砕き茫然たるもの数日ついに之を学ばんと決意す」とその衝撃を後年に語るように、この写真との出会いから写真師・下岡蓮杖が誕生します。写真技術の習得を志して人脈を求めた蓮杖は、横浜の開港を機にジュリア(のちのラウダ夫人)と共にアメリカ人写真師・ウィルソンに写真を学びました。ウィルソンの離日にともない、写真機材一式を譲り受けて1862年に写真館を開業させます。当初は技術的な面や薬剤の調合などが難しく、苦勞します。やがて技術と経営が安定すると、日本の風俗、風景、人物をモチーフとした名刺判写真が訪日外国人に人気を博しました。1863年初頭までに横浜・弁天通りへ写場を移転し、写真師・蓮杖の名を広めていきました。その後、1876年頃まで第一線で活躍します。

本展のみどころ

写真開祖・下岡蓮杖の初大回顧展

本展は日本写真史を切り拓いた蓮杖の足跡をたどる、国内外で初の試みとなる大回顧展です。未だ明らかにされていない下岡蓮杖の活動を紐解く貴重な資料を軸に、日本写真の開拓者・下岡蓮杖の真実に迫ります。



白井秀三郎 《下岡蓮杖像》 アンブロタイプ
明治初年 板部家蔵

未公開作品を含む280点を一挙公開

海外より初出品される名刺版写真アルバムやステレオ写真のほか、当館が誇る下岡蓮杖名刺判写真コレクションを加えた280点を前後期に分けて展覧します。国内外に点在する蓮杖作品を体系的に総覧する大変貴重な機会です。



『下岡蓮杖・白井秀三郎アルバム』より 鶏卵紙
明治初期(c.1868-1882)頃 日本カメラ博物館蔵

知られざる和魂洋才の絵師・蓮杖

写真師として名を馳せながら、生涯絵師として「和魂洋才」の信念を貫いた蓮杖。本展はその確かな実力を、精彩な日本画や工芸品など知られざる名品とともに紹介します。写真師・絵師、双方の仕事から才気溢れる表現者としての下岡蓮杖を浮き彫りにする展覧会です。



《間で囲碁を打つ男女》 鶏卵紙 文久三～明治九(1863-1876)年頃
東京都写真美術館蔵 ※前期のみ展示

英語による展示解説を開催

本展をより深く楽しむためのフロアレクチャーでは展覧会担当学芸員による通常の展示解説のほかに英語解説を実施。また、会期中には専門家によるトークセッションや鶏卵紙プリントワークショップなど初期写真への理解を深める多彩なプログラムを開催します。



《煙管と煙草盆と少女》 G.A.B.「日本」ステレオ写真
鶏卵紙 慶応二～明治初(1866-1876)年頃 個人蔵
※後期のみ展示

展示構成

写真師以前～第一期絵師時代～:狩野派絵師・董円時代の活動について

写真師時代:写真師として活躍した時代の仕事など

写真師以降～第二期絵師時代～:浅草時代の背景画や絵画など

そして、伝説へ:写真開祖・蓮杖を伝説化する文献や絵画など

出品予定作品

総点数:280点



《糸つむぎ》 鶏卵紙に手彩色

文久三～明治九(1863-1876)年頃 東京都写真美術館蔵

《ゲッセマネに祈るキリスト》 絹本着彩
明治三十二(1899)年 蓮杖写真記念館蔵



東京都写真美術館蔵の150点におよぶ名刺判写真(鶏卵紙・鶏卵紙に手彩色)、開業時期の制作と考えられる《木村政信像》(アンプロタイプ)をはじめ、《長谷部友二郎》(アンプロタイプ、長谷部安蔵)、『下岡蓮杖・白井秀三郎アルバム』(鶏卵紙・一般財団法人日本カメラ財団蔵)、《琴棋画図屏風》(紙本着彩・神奈川県立近代美術館)、《恵比寿図》(紙本墨画、下岡蓮杖記念館蔵)《達磨図》(紙本墨画、個人蔵)、《徳川家康像》(石版画、前田正隆氏寄贈・横浜開港資料館蔵)、《(達磨の火入れ)》(陶器、小川進コレクション)ほか、多彩な作品を展示します。

関連イベント

担当学芸員フロアレクチャー

会期中第2・4金曜日14:00～

4月28日(月)、4月29日(火・祝)、5月3日(土・祝)～6日(火・休) いずれも16:00～

英語フロアレクチャー

解説者:アリス・ゴードンカー (Alice Gordenker) (「ジャパンタイムス」記者)

4月6日(日) 14:00～、5月1日(木) 18:00～

パネルディスカッション「下岡蓮杖～作品とその生涯～」

登壇者=森重和雄(初期写真研究家)、石黒敬章(ゆうもあくらぶ事務局長、日本写真芸術学会評議員)

斎藤多喜夫(写真研究家・横浜開港資料館元調査研究員)

司会=三井圭司(東京都写真美術館学芸員)

4月13日(日)14:30～16:00

古典技法ワークショップ「デジタル写真を使った鶏卵紙プリント」

参加者が撮影した携帯写真などを元にデジタルネガを作成し、感光性の付与から画像の焼付け・定着まで19世紀に行われていた写真制作のプロセスを実際に体験できます。

Aコース 4月19日(土)10:00～17:00

Bコース 4月20日(日) 10:00～17:00

※本展覧会関連イベントの詳細はホームページにてお知らせいたします。

蓮杖を知るための KEYWORD

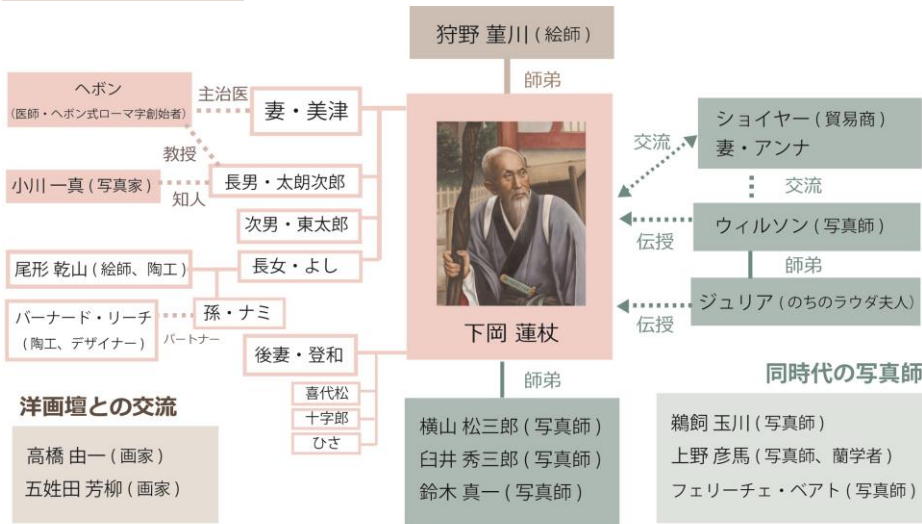
名前 Name

蓮杖は、師の恩を忘れないという意味をこめて、木工師に自分の身の丈よりも高く大きい蓮根の形を模した杖を作らせました。「蓮根」は師である狩野派の画家・董川の「董」を意味します。蓮杖はこの杖に恩師への想いを重ねて日頃より携え、身から離さなかったため、「蓮杖」と呼ばれるようになりました。

歴史背景 History

江戸、明治、大正と、激動の時代を生きた蓮杖。急速な変化の時代に翻弄されながらも、その写真師人生は開国による西洋文化との出会いによって幕を開けました。

人間関係 Community



- 浦賀事件 1846年
- ペリー来航 1853年
- 安政東海大地震 1854年
- 横浜開港 1859年
- 江戸城再建 1860年
- 大政奉還 1867年

表図：馬場善孝《下岡蓮杖像》油彩・キャンバス
昭和二十四(1953)年 下田市立図書館(部分)

「富士山聳え、其下に茅屋あり、
大樹傍らに生じ、一壺あり、
その中央に蛇ありて壺を窺う」



蓮杖が写真館を増設して間もなくの頃、不思議な夢をみます。「富士山」「萱吹き屋根」「大樹」「壺を覗く蛇」が映された夢を大切にしたい蓮杖は、これらのモチーフを自身の写真館の意匠にし、名刺版写真の裏面に印しました。のちに蛇は人類に葉(葉=写真にとって欠かせないもの)を教えたものだと宣教師から聞いてなお喜び、この意匠を用いました。

下岡蓮杖名刺版 裏面のスタンプ
慶応三(1867)年頃 東京都写真美術館蔵

意匠 Design

絵師 Artist

92歳*の筆であると明記されている本作の精密な筆致に注目。最晩年においてなお、研ぎ澄まされた絵師・蓮杖の確かな画力を堪能できます。



《琴棋画図屏風》紙本着彩・四曲半双 大正元(1912)年 神奈川県立近代美術館蔵
* 本リリースでは展示との統一表記として下岡蓮杖の年齢を教え歳で表記しております。

展覧会公式ガイドブック

下岡蓮杖について最も体系的に記された口述筆記『写真事歴』の現代語訳版を収録した本展公式ガイドブックを国書刊行会より出版いたします。全編和英、B5判、定価 2,800円(税別)

巡回展情報

静岡県立美術館 2014年6月10日(火)～7月21日(月・祝)

展覧会概要

展覧会名 没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖

Renjō: A retrospective on Shimooka Renjō, 100 years after his death

会期 2014年3月4日(火)～5月6日(火・休)[4月7日(月)に展示替えを行います]

会場 東京都写真美術館 3階展示室

電話 03-3280-0099

主催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会

協賛 ライオン／清水建設／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網

協力 下田市商工会議所

料金 一般 700(560)円／学生 600(480)円／中高生・65歳以上 500(400)円

※()は20名以上団体料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

お問い合わせ

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033

担当学芸員: 三井圭司 k.mitsui@syabi.com / 鳥海早喜 s.toriumi@syabi.com

広報担当: 久代明子 a.kushiro@syabi.com / 平澤綾乃 a.hirasawa@syabi.com /

前原貴子 t.maehara@syabi.com

プレス掲載用に図版データをご用意しています。

本展は展示替えのため、出品作品が変わります。(前期:3月4日～4月6日、後期:4月8日～5月6日)

詳細については上記広報担当までお問い合わせください。

※本リリースでは展示との統一表記として下岡蓮杖の年齢を数え歳で表記しております。